

優秀賞

高校生部門〈いじめの克服〉

私立清心女子高等学校3年

黒岡 結良菜

生きてて良かった。

中学三年生のある日からクラス、学年全体からの私のいじめはどことなく始まった。いじめの内容はまるで小学生がするような事だった。物を隠してみたり無視してみたり。しかし、自分でも知らぬ間にあつという間だったのかもしれないが、より醜いものへと変化していった。次第に私は教室にいるのも辛くなりお弁当を教室の隅で食べる事も難しくなった。他に食べれる所はお手洗いしかなかった。今思い返すと自分の事なのに他人の事のように思いたくなる時がある。もちろん、一人で耐えられなくなった私は当時担任をもつてくれていた六十代ぐらいの男の先生に相談した。しかし、返答は信じられない言葉だった。「全てお前が悪い」と言われた時、私の中で何かが切れた。

何度も親に相談、助けを求めようと思ったが、親の悲しい顔を想像するだけで気が引けて誰にもいえなかった私は段々と追いつめられていった。

ある日、死について考えた。誰も私が死んでも困らないと考えてはいけなさが考えていた。学校であつた事を全て日記に書いていたが、その日記を母に見られてしまったことがありそこからは親が私を守ってくれた。今でも親が私に言った言葉を覚えている。

「必ず、生きてて良かったって思わせる。」その言葉をきいた私は崩れ落ちた。その時、生きようと生きぬく力がよみがえった。

自ら命を絶とうとした私が今こうして生きていて、大好きな家族に囲まれている、生きてて良かったと心からそう思える。息が出来て、話が出来て、健康でこの時間を過ごせている事全てが幸せで生きる意味を教えてもらったし、毎日生きている事が奇跡なのだと感じる。

心の底から、生きてて良かった。